

事故防止に向けた安全対策

【 卓球 】

1 競技特性

卓球は、安全性が高く気軽に競技できることから、男女を問わず子供から高齢者まで幅広い年齢層に親しまれ、生涯を通して楽しめるスポーツである。学校現場の部活動においては、体育館の2階や空き教室など狭いスペースで行われることがあり、十分なスペースが確保できていないのが現状である。しかし、技術力が上がり、いろいろな技術を身につけてくると、動く範囲も広がり、ラリーが継続する。また、フットワーク等の練習も広範囲で行う事が多くなり、プレー範囲が広がる。その際は隣の卓球台との間隔を十分にあげるなどをして、台やプレイヤーとぶつからないようにすることが必要となってくる。また、カーテンを閉め、風が通らない場所で競技することが多いので、高温になる夏場は、こまめに休憩を取り、空気の入換えをするなど熱中症対策が必要になる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 卓球台の移動時 車輪がついているが、うまく回らず転倒してしまう。 また、段差のある倉庫等への出し入れの際その段差に乗り上げ、転倒してしまう。 卓球台の設置時 <p>① セパレートタイプの台については面を重ねてしまい、転倒してしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 一体型の台については、一人で開けてしまい、転倒してしまう。 <ul style="list-style-type: none"> 卓球台の撤去時 <p>① セパレートタイプの台についてはストッパーを外さず持ち上げたり、勢いよく持ち上げ、転倒してしまう。</p> <p>② 一体型の台については、一人で持ち上げて、転倒してしまう。また、面を合わせる際に指を挟んでしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> フェンス運搬台車の準備、片付け時 	<ul style="list-style-type: none"> 打撲、骨折 打撲、指挫傷 打撲、骨折 打撲、骨折 打撲、骨折、捻挫、裂傷 打撲、捻挫、指挫傷 	<ul style="list-style-type: none"> 用具準備の前に、注意点をアナウンスする。 卓球台を移動、設置、片付ける際には必ず教員が付きそい実施することが重要である。 卓球台の移動は必ず二人以上で行い、特に段差がある場合はゆっくり操作する。 二人以上で操作し、声を掛け合い、どの位置で台を広げるか確認し合う。 特に一体型の台は重いので4人で操作するようにする。開ける際は声をかけ合い、ゆっくり開ける。 用具片付けの前に、注意点をアナウンスする。台を持ち上げる際に必ずストッパーを外す。複数で扱い確認する。 台を持ち上げる際に必ずストッパーを外し、声をかけ合い、持ち上げる。重いので4人で取り扱う。 フェンス台車はいろいろなタイプがあるので、それぞれの台車に応じて操作する。フェンスを運び出す際は複数でゆっくり動かす。

<p>フェンスの台車が倉庫等の段差に乗り上げたり、うまく操作ができず、体が壁と台車の間に挟まってしまう。</p> <p>・フェンスの準備時</p> <p>フェンスを並べる際に足の向きを変えるときに動きが悪いフェンスだと指を挟んでしまう。</p> <p>・フェンスの片付け時</p> <p>フェンスをしまう際に足の向きを変えるときに動きが悪いフェンスだと指を挟んでしまう。</p> <p>また、フェンスを台車に乗せる際に持ち上げて重ねるため指を挟んでしまう。</p>	<p>・打撲、指挫傷</p> <p>・打撲、骨折、捻挫、裂傷</p>	<p>・フェンスの足は手でゆっくり向きを変える。硬い足の場合は数人で動かす。また、プレー中にフェンスが倒れないようにしっかり設置する。</p> <p>・フェンスを台車に乗せる際は、台車のタイプにもよるが、一枚を2人で扱い、指を挟むなどのけがを防ぐ。</p>
--	---------------------------------------	---

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<p>・ラケットが汗などにより滑り、手から離れて飛んでいき、周りの人にラケットがぶつかる。</p> <p>・隣のコートでプレーしている人と衝突する。</p> <p>・試合中、無理な体勢から打球したり、無理なフットワークからけがをする。</p> <p>・練習台確保のため走り、つまずき転倒する。</p> <p>・ボール拾いに行くとき、他のプレーヤーに気づかず接触する。</p> <p>・練習や県内大会時は規定のコートエリアの長さがとれないため下がりすぎて、壁やフェンスにぶつかる。</p>	<p>・打撲</p> <p>打撲、骨折</p> <p>・肩の腱炎、打撲、捻挫、アキレス腱断裂、骨折、肉離れ</p> <p>・胸部圧迫、打撲、骨折、捻挫、アキレス腱断裂、肉離れ</p> <p>・打撲、骨折</p> <p>・打撲、骨折</p>	<p>・ラケットのグリップが滑りやすくなっていないか点検させ、グリップをこまめにタオル等で拭くよう注意をする。</p> <p>・卓球台の間隔をできるだけ広くとり、プレーヤー同士の距離を保つ。</p> <p>・ウォーミングアップ、ストレッチ、クーリングダウン等を徹底させる。事前に事故例を伝え注意を促す。</p> <p>・練習台確保のために走らせない、走る者がいた場合は練習を中止させるなど事前に注意する。</p> <p>・ボールを拾いに行くときは、他のプレーヤーに近寄らないように注意し、なるべくプレイ終了まで待つ。</p> <p>・卓球台の周りのスペースを確認してからプレーし、あまり遠いエリアまでボールを追わない。</p>

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<p>・気温が高いときに体育館を締めきって、長時間プレーを行うことによる熱中症。</p> <p>・地震の際の対応</p> <p>・台風、大雪等の際の対応</p>	<p>・熱中症</p>	<p>・暗幕で閉め切った室内は、夏場はかなりの高温になるので、定期的に換気をする。こまめに水分補給を行うようアナウンスする。応急処置用の水や氷を準備するとともに、緊急時の連絡体制を確認しておく。</p> <p>・緊急地震速報がなったら直ちに活動を中止し、状況を把握する。大会等で遠方での活動の生徒に対しては帰路の手段を確認させ、場合によってはその時点で大会を中止する。</p> <p>・開催の有無、集合時間の変更等について、委員長、各支部委員長、担当より各校に連絡を行う。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・蜂や鳥が体育館に入ってきた場合 ・Ｊアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・蜂刺され等 	<ul style="list-style-type: none"> ・スズメバチを会場内で発見したらすぐ競技をやめて、管理者へ通報し、安全な場所へ避難する。蜂の駆除が済んでから活動を再開する。 ・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。
--	--	--